

食と農 一 「食べる」を自分事化

農を自分事化：「野菜（農作物）は買う物ではなく作る（栽培する）物である」

安藤昌益・農本主義・全員農業を具体化－職種無関係、国民全員が農作業に参加権利でもあり義務でもある 理念として徴兵制→徴農制 誰もが耕す義務

基本人権：耕作権 誰もが農作業に参加する権利（農地を持つかではなく、農業に参加し、栽培物の分け前をもらう権利） 事實上は「耕さざる者食うべからず」とは言えず、緩やかにできるだけ多数が農作業に参加する仕組みを構築する

農地の近くに住む人を優先して農作業者登録し、出勤通学前早朝摘果作業、昼間時間に余裕ができる主婦層が選別出荷を手伝う等、農作業に近隣住民が隨時参加する新しい農業形態を試行、自給自足と同時に脱高齢化と後継者問題の解決を図る

自然栽培特化・消費者参加型農業法人

農業法人（農地所有適格法人）を設立し農地を取得、農作物栽培を行う この經營理念は新農本主義である 生産者と消費者が一体となって栽培し自家消費する生産者は一家族の農家ではなく、様々な役割を分担し責任を持つ多数の共同経営者と、農作業実務を行う農業労働者であるが、この法人参加者は同時に消費者を兼ね、自家消費することを第一目的に栽培し、余剰生産物を近隣販売して地産地消し、他地域の連携農家と相互供給する この住区の住人は農作業者として参加する

食の安全を自衛的に確保するため自然農法に依存し、化学工業生産物である農薬と化学肥料を使わない栽培を行う 自然農法では単位面積当収量は低くなりがちであり、また元来気候は不安定なものである上にさらに気候変動の影響か異常気象が頻発する中で安定栽培ができるか、また害虫被害病気等の発生等、常に通常農業以上のリスクを伴う こうした栽培は常に実践研究をしているような面があり、各種DATAの蓄積が将来の安定生産に資するものであり、この法人は実践研究組織でもある いわゆる Food Mile 短縮をめざす立場から多品種少量生産（栽培作物・農業カレンダー例示）を行うが、その農作業と栽培記録DATAの取得、整理には労力を要する 従来型の農家ではこの労力動員は不可能であるが、この新農本主義では多数の消費者が農作業にも参加するので、それにより多品種少量生産とその実践研究を両立させる 農作業者は登録した人材のうち歩、自転車で農地に来ることができる人に優先参加させる 参加する側は農作業に参加したついでに、当日得られた各種の農作物を持ち帰ったり、それを近隣者に再供給したりして市場を経由しない供給を成立させる 自家栽培自家消費により選別、箱詰、市場への運搬等流通部門の業務を削減し、プラスチック容器、段ボール等の廃棄物発生も削減できる また市場経由供給に比べて価格評価しない直接消費が増えるので脱貨幣経済のミクロな実践ともなる 各種の食材を地域自給することで災害時やウイルス禍で移動も移送も困難な場合にも長期生活維持が可能になる

研究面では大学等の試験研究機関等との共同研究、民間研究助成資金、クラウドファンディング支援等にも期待する DATA取得のため深さ別地中温度、熱流フラックス測定、水分移動量測定、各種微気象測定が行える設備を農地にあらかじめ設置する また、ドローン撮影、衛星写真DATA解析等も行う できれば似た法人を各地に設立し、同品種について異なる土壤と気象条件で比較研究できるとよい

農地獲得と整備

農地は食を育む場所であり、清浄な土地でなければならない 都市近郊の農地と他の用途が混在するような土地利用は無秩序の放置であり、成熟した社会においてその状況を容認すべきものではない 一方で洪水危険地域に人居が残ることもその状況を容認すべきものではない 故に洪水危険地域の土地利用を早急に転換する事業を行なう、溢水危険地域で浸水が許容される土地利用としては事实上農地になると考え農地転用を促進するものとする 溢水危険地域での農業耕作権を取得する非農業用途の土地を農地にする際に汚れない土壌とするため深く掘って汚染表土を埋め込み、きれいな土だけの深層土を地表付近に使う天地返しを行う その際得られる深層土は煉瓦材料の粘土としても使う その際排水管（陶器製）を埋め込み農地土壌水分を調節しやすくする 既存農地では化学肥料、農薬成分が農地に残っている可能性があるので、農地の土壌形成に多年の栽培蓄積を要する可能性があつても、深層土から始めて耕作に適した土壌を育成する

食(大豆)

大豆の自給を中心に自家栽培自然農法を基本とする 和洋中、世界中で何でもありの食文化の中で日本における米食稻作の地位は低下、替わりに守るべきは大豆を中心の食文化 大豆を自家栽培 共感する豆腐屋で加工 味噌を自家作成 国産大豆は価格制約を別にすれば需要はある（再生エネと類似） 野菜と違い貯蔵できるので全国どこで作付拡大しても問題は起きない 今後の世界情勢では海外栽培輸入はあってはできないので国産を増やすべき これが大豆生産を組み込む理由の一つ

食(穀物)

天皇陛下も田植、稻刈りをするように、田植と稻刈りには住民多数が参加（農本主義実践） 畔木による天日乾燥を実施 輸入小麦の残留農薬が問題視されているとくにUSA、カナダ産小麦のラウンドアップ（旧モンサント社、グリホサート農薬）の健康影響が問題 その健康影響を回避するため国産無農薬小麦粉を食べたいので自家栽培する 栄養健康面から多種多様な穀物を食べる方針とし、大麦、もち麦も栽培 味噌自給のため麹用裸麦（大麦の一種）も栽培 自然栽培農業が軌道に乗れば圃場整備地区で小麦、大豆、稻と野菜を栽培、国産穀物の供給拠点とする 首都圏の消費地に近いので自然栽培国産小麦をパン、菓子、麺類の原料として供給

食（野菜）

初年は1haの農地で野菜を試験栽培自給 栽培が順調に行けば数年後から農地拡大 大豆は2年空けて栽培するための農地面積の3分の1で毎年栽培 残りの耕地と期間に多種類の野菜を栽培する 不足分は他地域自然栽培農家から供給 自作野菜と物々交換が基本 供給安定と多種野菜確保のため各地の自然農法有機栽培農家数か所と協力契約 農産物を共同購入 自家栽培分と合わせて集会棟等やサッカー試合の機会等で近隣住民にも販売 また単身高齢者等買い物難民者にも部分供給 生産余力がつけば近隣学校給食にも供給 農地見学、農作業体験も常時実施

野菜の試験栽培 特定の異なる作物を隣接した畠で栽培すると害虫が来ない組み合わせがあり、実地研究もされている これは個別具体的な地域、土壌、栽培種等の組み合わせにより条件が異なるので多品種栽培農地で試験栽培を行う

食 果実類

敷地北端部を果樹園とし果実栽培 夏みかん、レモン、冬みかん、栗、柿、梨、あんず、桃、梅ぶどう、いちじく、赤すぐり等 生食、ジャム等加工、自家消費と販売 外周土留壁上の帯状土地でブルーベリー（低木）栽培を行う

食 肉類（蛋白源）

輸入肉は飼料の農薬汚染懸念があり、国産肉でもとうもろこし主体の輸入濃厚飼料依存が高いので懸念は残る 飼倍率が高い牛、豚より飼倍率が低く他の自然系飼料依存を高め輸入飼料に依存しない鶏肉を優先して生産消費する

養鶏を含め牧畜は消費者参加しにくいので、遠くない地区的契約養鶏家から購入、鶏卵も得る 自然な餌を増やした飼育を実施するため、河川敷で餌になる雑草を栽培、ミミズ等を養殖して餌にする 河川敷の自然植生地を里山のような入会地として利用する 消費者が自分達でできることはこれらの飼料を養鶏業者に供給すること 牛、豚肉の消費を減らし、とうもろこしと濃厚飼料の輸入量を削減する

食 魚類(淡水)

サッカーフィールドの近く、やや下流域に上（かみ）養魚池を掘削、第2の遊水地を兼ねるサッカーフィールドメインスタンダード基礎部地下に設置した湧水貯留深水槽は養魚場池水の用水庫としても機能、養魚場の水温調節にも用いる

淡水魚を低密度飼育し魚系蛋白質食料の地産地消資源とする 川ます、鮎等を自然に近い環境で養殖する試行を実施

農地の下流端に下（しも）養魚池を掘削 上養魚池と合わせて農業水利の調整を行う 露地栽培用地中加温を行う場合は、上養魚池に加温熱源機械室を置き温水配管で熱供給する

多品種農作物生産 農業カレンダー

		関東地方における畑作多品種少量栽培例											
栽培種		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春 夏 秋 冬 作 付 け	ナス			●	●								
	トマト			●									
	ピーマン		●										
	キュウリ			●									
	シットウ			●									
	大葉（シソ）			●									
	オクラ			●									
	大根	●											
	人参		●										
	ジャガイモ		●										
	サツマイモ		●										
	キャベツ		●										
春 夏 秋 冬 作 付 け	サニーレタス		●										
	サトイモ		●										
	長ネギ	●											
	枝豆		●										
	大豆			●									
	春菊		●										
	カボチャ		●										
	インゲン		●										
	白菜	●											
	キャベツ		●										
	カブ		●										
	ほうれん草		●										
秋 冬 作 付 け	小松菜		●										
	ジャガイモ			●									
	スナップエンドウ				●								
	タマネギ					●							
	大根					●							
	米					●	●	●	●	●	●	●	●
秋 冬 作 付 け	小麦：農林61号						●						
	大麦						●						
	もち麦						●						